

令和5年度 授業改善推進プラン



大田区立徳持小学校

令和5年度 授業改善推進プラン 目次

学力向上を図るために	3
小中一貫授業改善プラン重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中校区）	・・・ 4
1 国 語	・・・ 5
2 社 会	・・・ 9
3 算 数	・・・ 12
4 理 科	・・・ 16
5 外 国 語	・・・ 19
6 生 活	・・・ 20
7 音 楽	・・・ 21
8 図画工作	・・・ 23
9 家 庭	・・・ 25
10 体 育	・・・ 26

学校・地域の実態や願いなど

- 児童の実態
- 本校の教職員の願い
- 家庭・地域の実態
- 保護者の願い

学校の教育目標

- 考える子 ○やさしい子 ○つよい子

教育関係法規など

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- 教育委員会の教育目標
- 東京都教育ビジョン
- おおた教育ビジョン

家庭、地域社会、他の学校や関連機関との連携

- 家庭と協力して基本的生活習慣を身に付けさせる。
- 地域の人々の協力を生かした教育活動を積極的に行う。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 自ら課題を見つけ、自ら学び考え、判断し、解決する能力、態度を育成する。
- 学び方やものの考え方を身に付け、探究活動等に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。
- 自然体験、ボランティア体験などを通して、自らを生かし、望ましい人間関係を育てる。
- 情報や環境など、新しい社会的課題に気付き、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

特別活動の指導の重点

- 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- 集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の重点

- 郷土の特色(池上地区の特色)を活用した学習を通して、身近な地域への関心を高める。
- 地域の人との交流を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育てる。

学校経営方針(学力向上に関わる重点)

- 授業力向上の目指し、学び合い、高め合う授業の実践により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する。
- 主体的に学ぶ意欲の向上。
 - 基礎的、基本的な知識・技能の定着。
 - 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成。
 - ・算数習熟度別指導の充実
 - ・補習教室の実施
 - ・校内研究の充実
 - ・地域の教育力の導入

校内研究

交流で互いの考えを認め合い学び合うことのできる対話力の育成

- 【目指す児童像】
自分の考えや思いをもち、それらを対話で伝える喜びや理解する喜びを味わい学びを深められる子

人間関係や環境の整備、生活指導、生活全般における指導の重点

- 「徳持スタンダード」の徹底により、学校のきまりを理解し、基本的な生活習慣が定着できるようにする。
- 相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
- 安全な環境を整備するとともに正しい言語環境、信頼し合う人間関係を育てる。
- 学校カウンセラーと連携・協力し教育相談の充実を図る。

各教科の指導の重点

国語	各教科学習の基礎となる言語力の育成を図る。「話す・聞く姿勢」を徹底させ、話し合う力を育てる。また、読書活動を推進し、読む力を伸ばす。
社会	資料から必要な情報を集めて読み取り、社会的事象の意味等を解釈し、自分の考えをもつことで、他視点で公正に判断する能力や態度を養い、社会形成に参画する資質を育成する。
算数	数や図形の感覚を育てるために算数的活動を多く取り入れる。基礎的・基本的な内容の確かな定着を図るために、発達や学年の段階に応じたステップ学習による指導を充実させる。
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力をつける。自然の事象・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
生活	言語活動などを通して、人とかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。
音楽	リズム、旋律、ハーモニーを大切に学習を展開し、基本的な楽器の奏法や発声ができるようにする。
図工	絵の具、道具や工具等の基本的な扱い方を基礎力として身に付け、自分の思いを自由に表現できるようにする。
家庭	家庭生活の基礎となる生活技能を、体験活動を通して学ぶ。自らの課題達成のために進んで調べ、手順を考えたり、よりよく工夫したりできるようにする。
体育	体づくり運動などで基本的な動きや柔軟性を身に付ける。また、運動量を確保するとともに自らめあてをもち、励まし、学び合いながら学習できるようにする。
外国語	コミュニケーションの目的や場面を意識して活動を行う。英語の音声や語彙、表現などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

指導内容・指導方法	教育課程	研究・研修の工夫	評価の工夫	地域や家庭との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○学び合い、高め合う場面を設定することで、主体的に学ぶ意欲を高める。 ○教材研究の時間を確保し、指導を工夫して、よりわかる授業を行う。 ○算数タブレットドリルや習熟度別指導、東京ベーシックドリルの活用など、個に応じた指導の充実を図る。 ○体験学習・問題解決学習を取り入れ、自ら課題を解決する力を育成する。 ○読書指導や言語活動を充実させ、各教科の基礎となる言語力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振替なしの土曜授業を年間9日実施し、学力向上のための時数を確保する。 ○土曜補習教室、基礎・基本の力を定着させる。 ○読書週間、保護者による読み聞かせなどにより、読書活動を推進する。 ○全学年で外国語活動を実施し、国際理解教育を推進するとともに、言語に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を授業力向上の場とする。全学年・専科教員で分科会を組織して、研究授業を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。 また、学び合い、高め合いを重視した授業を行うことができるようにする。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、外部の研修に参加したりして、指導力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを明確にし、1時間ごとの評価を生かして学力の定着に努める。 ○学校公開での保護者アンケート、外部評価などにより、授業改善を行う。 ○学習効果測定の個人票を基に、学習の定着状況を振り返らせ、目標に向けて学習計画を見直すことができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「徳持スタンダード」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着のために取り組む。 ○国際理解、健康、キャリア、環境教育、地域学習など、地域の協力による体験や交流により学びを広げる。 ○徳持応援団(学校支援地域本部)により、漢字検定など、地域の人材を活用し、地域の教育力を組織化し、教育活動をさらに充実させる。

(様式) 小中一貫授業改善プラン 重点観点及び重点指導事項一覧 (蓮沼中学校区)			
国語科			令和5年度
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	「読むこと」 ・説明的な文章を読み、理解したことや考えたことを報告する対話的な学び。 ・文学的な文章を読み、考えたことを伝え合う対話的な学び。		
社会科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	ICTを活用した協働学習の充実		
算数・数学科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	課題に対する思考力、判断力、表現力を培うために、ICT機器や教具を効果的に活用する。		
理科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ICTを用いた実験・観察の予想と考察を行う ・班による実験・観察の予想と考察を行う		
音楽科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図を伝えあう活動の工夫。 ・音楽を表現していく経験の積み重ね。		
図画工作・美術科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	ICTを活用したグループによる鑑賞および表現活動を通して、思考力や表現力を高める指導の工夫。		
保健体育科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点	◎		
重点指導事項	・運動の苦手な児童・生徒が好きにさせる指導の工夫。 ・小中のスムーズな接続のための基礎的、基本的技能の習得		
技術・家庭科			
		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・授業の中で学んだことを生活の中に活かし、ICTを活用しながら工夫して作品を作る。		
外国語科 (英語)			
		観点別 (指導要録に記載されているもの)	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ICTを活用した授業実践を行う。 ・小中連携を意識した授業実践を小学校で実施し、授業改善を図る。		

(1) 成果

- 校内平均正答率は全学年において基礎・活用ともに目標値を上回った
- 「読むこと」の領域においては、重要な語句から大まかな内容を捉えたり、登場人物の気持ちを読み取ったりすることにおいて数値が高まった。
- 本校の授業において、児童が目的意識を持ち、自分の考えを言葉で表現することの楽しさを味わいながら友達と学ぶ時間を取り入れたことにより、主体的に取り組む態度の数値が高まった。

(2) 課題

- 「書くこと」の領域では、高学年において自分の考えや思いを書くことに対する抵抗がある。様々な形態や文字数等を設定し、日常的に慣れていく必要がある。着目すべき視点を明確にして、文章構成や表現について指導していく。
- 語彙理解が不十分である。児童が主体的に言葉に関心を持って学習に取り組むことができるようにしたい。辞書や chromebook を用いての調べ活動、言葉と経験とを結び付けていく学習を取り入れ活用できるようにしていく。また、朝読書や読書週間等で、引き続き読書に親しませていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	• 校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに、目標値を上回っている。	• 校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	
第5学年	• 校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに、目標値を上回っている。	• 「基礎」の校内平均正答率は、目標値と区平均値を上回っている。	• 校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。
第6学年	• 校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	• 基礎、活用共には目標値を上回っているが、区平均正答率は下回っている。	• 教科全体、基礎は目標値を上回っているが、活用については、下回っている。また、区平均正答率を共に下回っている。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・漢字や言葉の内容はおおむね定着している。特にローマ字は、日常的にキーボード入力を行っているため目標値上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・「読むこと」の領域で、内容を十分に読み取ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率と、目標値がほぼ同等。 ・自分の考えを明確にし、内容の中心をおさえ、文章を書くことができている。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉」の既習内容の漢字の読み書きについて、読みは概ね定着しているが漢字を正しく書くことの正答率が目標値よりも5ポイント以上低い。 ・連用修飾語の理解や指示語の役割など「言葉」の文法について、苦手な傾向がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」では、物語の登場人物の様子や情景などを参考にして、気持ちを読み取ることができる。 ・「書くこと」では、決められた文字数で、根拠を明確にした自分の考えを書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率は、目標値と全国平均正答率を上回っているが、区平均正答率より下回っている。 ・指定された長さで文章を書くことに苦手意識が見られ、無回答もある。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値より上回っている。「漢字を書く」学習が全国平均より下回っている箇所が多い。 ・段落相互の関係や、情報と情報の関係について理解がよくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の平均正答率より上回っている。 ・資料から読み取った事実を書く内容が全国平均より大きく下回っている。 ・自分の意見を明確にして書いたり、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることはよくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の平均正答率より上回っている。 ・条件が設定されている際に、その条件通りに読み取れていない場合がある。条件や情報が多いと読み取り切れていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やす。そのために読書の時間を十分にとる。言葉の意味を動作化したり具体物を提示したりして説明する。 物語や説明文などの内容を正しく読み取る。そのために、繰り返し音読をさせる。 タブレットを活用したり、言葉集めやしりとりを行ったりすることを通して、学習の基本となるひらがな・がたかな・漢字の正しい書き順を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉で表現できるようにする。そのために、話し合い活動の機会を設けたり、必要に応じ話型を提示したりして自分の考えをまとめやすくする。 自分の考えをもって対話をすることで、互いの感想を伝え合い、互いの考えを共感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書が楽しいと感じられるように、図書時間に読書学習司書による読み聞かせを行う。また学習単元に関係する内容の本を集め、並行読書を行い、読書の楽しさを実感できるようにする。 学習したことを他教科や生活に生かせるように各単元で他教科と横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙をふやすために、教科書「ことばのたからばこ」を活用する。 正しい漢字の書き方を定着させるために、小テストや漢字ドリルを計画的に活用し、繰り返し取り組む。 文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。 音読の習慣をつけ、様々な詩や文章表現に触れつ機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「順序を表す言葉」を使って、自分の体験したことや気持ちを分かりやすく表現する習慣を付ける。 友達の考えを聞き、自分の考えや質問、感想を伝えられるように話型を提示したり、良い手本を示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に関心をもてるように、図書時間に読み聞かせをしたり、学級での読書時間を作ったりし、感想を伝え合う時間を設ける。 自分の気持ちや思いを表現する活動を多く設定して慣れさせる。 学習したことを他教科に生かせるように各単元で横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を正確に書けるよう定期的に小テストを行う。熟語や文例を考える事に継続して取り組むことで、漢字の定着と語彙の拡充を図る。 主語述語の関係や指示語など、言葉の特徴や使い方について繰り返し、指導を行う。 話型を示し、機会を設定して質問の仕方、話し合い方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の場面の推移や重要な語句を明確に提示し、具体的に想像して書いたり、説明したりできるようにする。 文章の組み立て方や、わかりやすい説明の仕方を明示して、書き方を共有することで相手に伝わりやすい文章が書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典をひく習慣の定着を図り、言葉への興味関心をもてるようにする。 学習課題や学習計画を児童と共に立てる。 図書時間や読書週間を活用し、学年にふさわしい本や幅広い分野の本に親しむことができるようにする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの基になった叙述や表現に印をつけたりメモしたりすることで、自分の考えを支える理由を話したり書いたりできるようにしていく。 国語辞典を他教科においても意識的に活用できるようにし、辞書の使い方に慣れるとともに、語彙を広げていくことができるようにする。 毎日の漢字学習、週1回の漢字小テストを実施し、繰り返し書くことで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 抽象と具体の違いを単語から文章へ応用し、明確に捉えられるようにする。 書こうとすることの中心を考え、段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く時に話す人の方向を向くことを徹底し、聞く姿勢を身に付けさせる。 聞き手を意識して話す順序を考えたり、文章に表したりするなどして、聞き手に分かるように話すことができるようにする。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間に既習した漢字や文法などをドリルパークや漢字ドリルなどを使って復習する時間を設ける。 文章の構成についてしっかりと理解させ、誤読なく、文章を読むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや筆者の考えをまとめるときに、文字数や文章の長さを指定して書かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの観点をしっかりと定着させることで、自らの課題を見つけて学習に取り組めるようにする。また、文章を書かせる機会を増やす。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の「読む」だけでなく、「書く」学習にも重点を置き、漢字学習の際、繰り返し学習を行う。また、引き続き、漢字を使用した熟語などの語彙学習を行う。他教科も含めて書いたり、まとめたりする学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章では、文章全体の構成や指示語の内容に気を付け、文章内容を適切に捉えられるようにする。 「書くこと」の学習では、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして明確にできるよう、作文など書く学習活動を増やしたり、読み合ったりすることで文章に触れる機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を自ら設定し、それに向けて自ら調整を行い、粘り強く学習に取り組めるような単元設定を行う。また、児童が自己の学習について見つめられるように、単元の終わりに毎回振り返りの視点を設けたりする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生では、社会的事象の意味を考え、友達と意見交流したり、新聞づくりで考えを表現したりしたことで、活用の正答率が上がった。
- ・5年生では、調べて考えた事を白地図にまとめたり文章表現したりしたことで知識が定着した。資料から何が読み取れるのかまず個人で考え、さらに学級で話し合う機会を設けたことで、資料活用の力が身に付いた。
- ・6年生においては、写真、図、グラフなどの資料から学習課題に沿った内容を読み取る活動を繰り返し行った。友達との考えの交流を行ったことで自分の考えをもつ事ができた。

(2) 課題

- ・引き続き各種の資料を的確に読み取る活動を重ね、知識の定着を図ると共に、児童が事実を比較・関連させて自分の考えをもてるよう、問題解決的な学習を充実させる。
- ・自分の学び方を振り返る機会をつくり、学習の仕方に見通しや自信をもてるように助言や支援を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・校内正答率は、目標値を若干下回った。基礎は目標値を下回ったが、活用では上回った。		
第5学年	・校内平均正答率は、基礎、活用どちらにおいても、目標値を上回った。	・校内正答率は、目標値を下回った。領域別正答率では、12項目中8項目で目標値を下回った。	
第6学年	・校内平均正答率は、教科全体、基礎、活用共に目標値を若干下回っている。	・校内正答率は全ての領域において、目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率（基礎）が、目標値を下回った。校内平均正答率（活用）が、上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の地図記号についての知識が定着している。 ・「くらしの移り変わり」で、くらしの様子の変化を理解する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売の仕事に見られる工夫について考え、表現する力が身に付いている。 ・写真や年表に注目して市の様子の移り変わりを捉え、判断する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に着目しながら、社会的事象と自らの生活について関連付けて選択・判断することが苦手である。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフなどの資料から、学習課題に即した内容を読み取ることが若干難しい。 ・「くらしをささえる水」では、ダム建設の意義を理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項、グラフなどの資料から、学習課題に即した内容を選択し、それを基にして、自らの考えをもったり、表現したりすることが苦手である。 ・社会的事象の共通点や差異点を整理し、自分の考えについて根拠を明確に表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことと自らの生活を照らし合わせ、根拠を基に、自らの考えを構成することが苦手である。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を若干下回っている。 ・国土の自然などの様子、および工業生産についての知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回っている。 ・既習事項から予測したり、資料から読み取ったりしたことを自分の考えとして表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値とほぼ同等である。 ・学習したことと、普段の生活を結び付けて考えたり、予測したりすることに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 資料や地図帳から情報を読み取る機会を繰り返し設定し、地図の見方に慣れ、正確に読み取れるようにする。 地図記号クイズや年表づくりに取り組み、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を書いてから、ICTを活用して友達と意見を交流し、課題の考え方や考えの深め方に気付かせる。 問題解決的な学習過程を繰り返し、社会的事象の意味を捉えて表現する事に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して、予想や見通しをもつ場を設定する。 調べ方やまとめ方の例や方法を示し、工夫して取り組むよう促す。 学んだ内容や学び方を振り返る機会をつくり、認め励ましていく。
	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用したり、資料や地図などから情報を正確に読み取ったりすることを通して、知識を定着させていくようにする。 くらしについて関連する施設などがどのような役割を果たし、地域とどう関わっているかに着目して考えをまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力を把握し、その解決に向けて関わり方を選択・判断する力、表現する力を養う。 ICT危機を活用したり、交流したりすることを通して、自らの考えを広げる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を解決するために社会的事象について調べ、そのことを表現する機会を多くする。 学習したことを社会生活に活かしていけるようにする活動を取り入れる。
高学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方ははたらかせ、グラフや表などの資料から、学習問題に基づいた内容を読み取る活動を取り入れていく。 地名や都市名など、既習内容を復習する学習活動を取り入れ、4年生での学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項やグラフなどの資料から学習問題に沿った内容を読み取る活動を適宜取り入れ、それを基にして、明確な根拠のある自らの考えを表現する学習活動を行う。 資料を伴う学習や友達との交流で、自らの考えを広げたり、深めたりすることができる学習展開を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での社会的事象について、自らの生活と関連付け、その目的や活動の意義を考える活動を取り入れる。 資料などから読み取ったことを自らの生活での取り組みと照らし合わせたり、友達と交流したりして、根拠を明確にしながら自らの考えを再構築する学習活動を取り入れる。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器や資料集などを活用し、資料に触れる機会を増やすとともに、授業の中でクイズを行い、知識の定着を図る。 単元別のテストでは振り返り、復習を設け、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取ったことを基に、自分の考えを、根拠とともに説明できるような授業を展開する。 友達と交流する時間を適宜取り入れ、自らの考えを広げたり、深めたりすることができる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取ったことをクラスで共有し、それをもとに学習問題を立て、自ら課題解決に取り組むことができる授業を展開する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの普及により、授業の工夫や変化が見られ、児童の表現の仕方の幅が広がった。
- ・タブレットドリルの活用により、児童自身の学習への理解度が俯瞰して見られるようになった。

(2) 課題

- ・表現の仕方が広がったことにより、知識や技能を活用して考えたことを、友達にわかるように表現する力を身に付けさせる工夫をする必要がある。
- ・学習効果測定の結果から、知識の応用は基礎項目に比べてできている傾向が見られたため、日頃の授業を通して四則計算などの基礎基本の定着を図り、より生かしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。		
第5学年	・基礎については、目標値を下回った。しかし、活用は目標値を上回った。	・校内正答率が、基礎、活用共に目標値を上回っていた。	
第6学年	・活用については、目標値を上回った。基礎は目標値を下回った。	・活用については、校内正答率は、目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。

(2) 分析 (観点別)

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は目標値を上回った。 ・大きい数や小数・分数についての理解力が高い。 ・わり算の余りありの文章問題の誤答が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は目標値を大きく上回った。 ・□を使って文章問題を式に表し、計算する力が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・記述問題で自分の考えを表現する力がある。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の仕組みや億や兆概数の表し方、数直線上に示された分数を読み取ることが弱い。 ・分度器での角度の読み取りが難しい。 ・様々な形の性質や作図をすることが難しい。 ・折れ線グラフと表を読み取ることに難しさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりを理解し、その式に合った文章題を選ぶことができる。 ・身近なものの面積の見当をつけることができる。また、複合図形の面積の求め方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内平均正答率が、目標値・全国平均を上回った。 ・図形の面積の求め方について全体的に理解しているが、図形の性質の理解が乏しいため、作図に苦戦している。 ・上からある桁の概数の求め方の理解が難しいと感じている児童が多くいる。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値とほぼ同等であるが、区や全国の正答率を下回っている。 ・分数の計算についての理解に課題がある。 ・小数でわるわり算や小数をかけるかけ算の計算を苦手とする児童が多い。 ・円周の長さを求める式やひし形の面積を求める式など、公式が定着していない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の正答率より上回っているが、区や目標値を下回っている。 ・比例・単位量あたりの大きさに課題がある。面積と人数の割合を求め、どこが混んでいるか考えるなど答えから事実を追究することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、全国の正答率を上回っている。 ・四角形の内角の和の求め方について、条件について合うように説明ができていない。 ・理由を述べる際に、無回答の児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算の計算力を定着させるために、練習時間を十分に確保し、プリントや計算カード・タブレットドリルを使って反復練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で自分の考えを相手にわかりやすく説明する機会をもつ。図・具体物の操作を用いながら考えの根拠を明確にして話すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲をもたせるために、身近な日常生活の場面や、具体物などを問題の題材として取り上げる。 学習を振り返る時間をもつことで、理解を一層深められるようにする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードやプリント、ドリル、タブレットのアプリなどを活用して、繰り返し練習して定着を図る。 時刻や時間、長さやかさなどの様々な単位を使用する学習については、日常的に取り上げて慣れ親しむようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図・絵、言葉 ICT を利用して説明する機会を増やし、考えを深める。 文章題では演算決定のキーワードに着目させ、そこから立式できるように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を活用したり、ICT による操作活動を行ったりして興味関心がもてるようにする。 日常生活の中で、大きな数や、長さや水のかさなど単位に着目して、積極的に活用する機会を増やす。
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算を継続して反復練習をし、正確に早く解けるよう定着を図る。 計算の意味や仕方を言葉や数、式、図を用いて説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の場면을想起させて聞かれている内容をしっかり把握し、必要な情報を取り出して立式しできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が授業を振り返り、まとめる時間を作る。 既習事項をタブレットを用いて復習させ、より深く理解に繋がるようにする。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数・分数の意味と表し方について理解し、四則計算を継続して行い定着を図る。 コンパスや分度器等の使い方を理解し、図形の構成や面積や角の測定を正しくできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや数直線を活用し、変化や対応の特徴を見だし、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力を養う。 個人から小グループ・全体と交流の場を大きくし、他者との考えの相違を理解し、自分の考えの幅を広げる活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りの時間を適宜取り、学習課題を多面的に捉え検討して、より良いものを求めようとする態度を養う。 学習内容を自らの生活に生かそうとしたり、次の学習に活用しようとしたりする姿勢を身に付けさせる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットドリルを始め、タブレットを有効に活用し、既習事項の確かめをさせる。 ・小数の仕組みや億や兆概数の表し方などの基礎・基本的な問題に授業の始めなどに継続的に取り組む。 ・少人数習熟度別学習の利点を生かし、補習が必要な児童に対して単元末テストの直前等に補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、自分の考えを交流する時間を十分に設ける。 ・友達の考えを聞いて、自らの考えに立ち返る時間も確保する。 ・学習したことを身の回りや、他教科の授業で生かすことができるのか考える時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを適宜行い、自らの学習状況を把握し、次の時間に生かすことができるようにする。 ・振り返りの観点をしっかりと定着させることで、自らの学習状況にあった学習に取り組む手立てとする。 ・間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットドリルを活用して、計算や約数、倍数等繰り返し練習させる。 ・用語や公式を確実に用いることができるように掲示したり、繰り返し確認したりする。 ・分数の計算、小数でわるわり算、小数をかけるかけ算などの計算問題に授業の始めなどに継続的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線等を用いて、自分の考えを説明する活動を増やす。 ・比例・単位量あたりの大きさを理解するため、社会科など他教科も横断して割合を求める機会を普段の授業から取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。 ・自分の考えを図や言葉、式で表し、友達に考えを説明する機会を通して、よい説明の仕方について共有する。



1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 一部児童は、実験観察を通して、科学的事象の一般化だけでなく、次に疑問につながる考察ができるようになってきている。
- 実験、観察に意欲的に参加する児童が多い。理科室利用の約束事や実験中の安全管理も身に付いている。

(2) 課題

- 基礎的な学力が身に付いていない。学習過程をユニバーサルデザイン化し、各学年で働かせるべき理科的な考え方と基礎的な知識の定着を図る。
- 引き続き、科学的事象の因果関係や理科的な用語等の理解・定着を図ること。
- 実験・観察で結果として認識したことと学習としてのつながり、学習内容と生活場面でのつながりが希薄であること。単元の導入や実験・観察やまとめの場面で、日常生活とのつながりを意識した授業づくりをする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・活用については、校内正答率は、目標値と区正答率を上回った。		
第5学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値と区平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を下回った。	
第6学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値と区平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡の集光の働きが理解が低い。 ・「音の性質」では物の震えが止まると、音が止まることへの理解が低い。 ・磁石の極の性質についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽と地面の様子の中電灯を太陽に見立てた実験方法について正しい操作方法を説明することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の通り道では、行った実験からどのような問題を見いだしたかを推測することが難しい。
高 学 年	第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「天気のようにと気温」では、気温のはかり方が定着していない。 ・「物の体積」に関わる単元では、空気の圧縮の手応えや体積の変化についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水のすがた」では、ペットボトルを凍らせたとき、膨れて変形した理由を説明することが難しい。 ・「電気のはたらき」では、モーターの回転する向きと電流の流れる向きの関係を説明できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1年間の動物の様子」では昆虫の観察に主体的に取り組むことができていなかった様子が見とれた。 ・「天気のようにと気温」でも、気温変化の観察に対して同様であったことが伺えた。 ・「月と星」では、星の観察に意欲的に取り組んでいたことが推察される。
	第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、区、全国の平均正答率を下回った。 ・日本付近の雲の動きの理解に課題。 ・顕微鏡のスライドガラスについての理解が身に付いていない。 ・ふりこの時間の求め方が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、区、全国の平均正答率を下回った。 ・植物の花のつくりと実において、複数の植物のつくりの共通性から推測できていない。 ・グラフから、水の温度を上げた時の食塩とミョウバンの溶解度の変化を読み取ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、区、全国の平均正答率を下回った。 ・実験における条件制御の誤りについて正しく述べることができていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT を用いた視覚的な教材（NHK for School）や身近な生物を活用することで、児童が意欲をもちながら知識の定着を図ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験をもとに予想させ、結果や考察を絵や図、表を用いてまとめさせることで、科学的・論理的に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生物の特徴を育て、調べる活動を通して、生物を愛護する態度や差異点、共通点をもとに問題を見出す力を養い、問題解決できるようにする。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解へと結び付ける。ICT を活用し、実験方法等をきちんと確認できるようにし、定着につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして分かりやすく考察をまとめさせ、思考する力を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に科学的事象が実感できる体験的な活動を行うなど関心や意欲を高め、児童の問題意識を主とした学習活動を行う。 既習内容を生活との関わりの中で見直し、実感の伴う学習活動を展開する。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解の定着を図る。 実験や観察で、正しく記録する方法を児童自身に考えさせることで、方法や観察の方法を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして根拠を明確にして考察をまとめさせ、表現する学習活動を設定する。 実験や観察で、ねらう結果を導き出すための方法を考えさせることで、自然事象を論理的に考えることを定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ観察や実験を教室以外（理科室や校庭、校外）で行う学習活動を設定し、主体的に学びたくなる指導の工夫をする。 また、実感を伴って生活と結びつくような体験的な学習活動を取り入れる。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を用いて、実験方法を確認し、基本的な実験や観察を正しく行えるようにする。 用語を正しく理解し、覚え、使えるように、関連する学習で既習の内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件を制御する考え方を働かせ予想を基に、解決の方法を考えさせる。 実験や観察の過程や結果を記録する方法を工夫し、定着を図る。 得られた結果を考察する視点を与え、適切に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に日常生活と結び付け、科学的事象に興味をもたせるようにする。 得られた結果を考察する際、友だちと考えを交流し理解を深める場面を増やす。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

チャンツやゲーム、フラッシュカードなどを活用した活動を取り入れることで、外国語に親しもうとする児童が増えた。給食時間に英語の歌を流すことで、口ずさむ様子が見られた。

(2) 課題

外国語に苦手意識があり、学習に積極的に向かう児童とただ取り組んでいる児童とで二極化している。また、アルファベットの大きい文字と小さい文字について正しく書けない児童が一定数いる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 習得させたい単語の絵カードや会話例を黒板に貼って、見返しながら反復練習できるようにする。 発音、発話量を多くできるように、場面設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 習得した表現方法を用いて、相手意識をもって発表する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組めるよう、学ぶ必然性をもてる学習過程を設定する。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 英語特有のリズムやイントネーションを体得できるように、英語で歌ったりチャンツをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表現の意味の手がかりになるように、顔の表情や身振りを大きくしたり、イラストや写真を用いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に外国語でコミュニケーションが図れるように、身近な場面を設定し、友達やALTと尋ねたり答えたりする活動を多く取り入れる。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 新出単語はフラッシュカード等を用いることで、意味の理解や発音を習得させるようにする。 様々な表現に慣れ親しませるために、習った表現を必然的に発音するような活動内容を考えて定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 習った表現を友達やALTとの交流で繰り返し用いることで内容や状況を推測する力を高める。 簡単な表現を使って自分の気持ちや考えを英語にして書く場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを提示し、児童が主体的に活動できる授業で行っていく。 日常で使われていたり、使えたりする表現をALTと共に積極的に使っていく、児童が慣れ親しめる場面を増やしていく。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 歌やリズムに合わせ、くり返し発音することで知識技能の習得・定着を図る。 ゲームを行い、楽しみながら知識技能が習得・定着するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定量の文章を聞き、聞き取れた内容を伝え合う活動を通し、学習内容に対する理解を深める。 英語を使う場面を設定し、自分の思いや考えを伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組むことができるようにするため、適宜ゲームや歌を取り入れ、みんなが参加できるような授業展開を行う。 外国語を扱うことの必然性がある授業を展開する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・限られた校内環境の中ではあるが、アサガオやミニトマトを育て、植物を大切にすることを育ち観察することができた。
- ・学校探検は2年生が1年生を連れていった。1年生は学校内の場所や人への興味関心を高め、校内の身近な施設について学ぶことができた。2年生は、上級生としての役割が増えたことに気付き、自分たちにできることは何かを考えて実践することができた。
- ・まち探検は、保護者の協力も得て児童の自発的な調べ学習を進めることができた。

(2) 課題

- ・コロナ禍で交流学习に限りがあり、例年のような調べ学習が十分にできなかった。引き続き自分の学校地域への愛着を育てていくことが必要である。
- ・自分の成長を振り返り、見守られ愛情をもって育てられたことに気付くこと、感謝する気持ちをもつこと、今後の目標や希望を持ったりすることが十分とはいえない。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの気付きをもたせるために、体験活動やタブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を取り入れる。 ・栽培活動を通して、植物が変化し成長していることや、生命をもっていることやその大切さに気付かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習や全体での発表の場を多く取り入れることで、友達の考えや気付きを知る。 ・見つけたもの・こと・人・植物の成長などについて、分かりやすく伝えるために、言葉や絵、文章などで表すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い気付きをしている児童を取り上げて価値づけ、学んだことを他教科や生活に生かす。 ・よい気づきの児童を積極的に紹介する。また、具体的な視点を与えて、観察などの視点をはっきりさせるようにする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ野菜の栽培活動を通して、成長の様子を自発的に気付けるようにする。 ・学校のまわりの公共・まちの施設見学を行い、人との関りを大切にする姿勢を育てる。 ・タブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を多く取り入れ、自分で課題を解決する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流を多く設けたり、活動の楽しさを味わったりするとともに、自分の気付きを具体的に表現する活動を通して、相手に分かりやすく伝えられるように表現力を高める。 ・小グループでの話し合いや発表会など、友達と交流することで、相手の考えの良いところや自分の考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の過程をきめ細かく見取り、つぶやきや発言、思いを持つことを称賛して価値づけ、活動カードに振り返りなどを記録させて自分自身の成長を実感させ、意欲的に取り組む態度を養う。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 音楽を聴き、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現することができるようになってきた。
- 旋律の特徴を生かした音色になるように、練習時に言葉で特徴を表現させてから音楽での表現へとつなげることで、旋律の特徴を生かした表現ができるようになってきた。

(2) 課題

- 感染症対策で歌唱や器楽を行っていなかったため、音に合わせて歌ったりマスクを外して楽器を演奏したりする活動に対して、積極的に参加できない児童がいる。
- 創意工夫を自ら考え、演奏に生かすことが難しい児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • リズム感覚を身に付ける。そのために、リズム譜を見ながらリズム打ちができるようにする。様々な楽器の音色の特徴をとらえて演奏できるように活動時間を十分に確保する。 • 身体表現を使うなどしながら階名の模唱や暗唱に取り組む。音の高さや速さを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 曲想を考えて、曲想に合わせて歌い方やリズムを工夫して歌ったり演奏したりする。そのために拍のまとまりや拍子の違いを感じ取らせたり、歌詞やメロディーから曲のようすを想像したりして音学的感覚を身に付けさせる。 • 音楽に合わせて体を動かしながら、歌ったり友達の歌唱や演奏を聴いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 楽器に親しんで演奏する活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 • 曲が表現している様子を想像したり、体を動かしながら鑑賞したりすることで興味をもって、進んで学習に取り組むようにする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 体でリズムを感じ取り、拍の流れに乗って身体表現をしたり、簡単なリズムフレーズを作ったりすることができるようにする。 • 音の高低を感じ取りながら、歌ったり演奏したりできるように、身体表現をつかったり、階名の書かれた表を指さしたりしながら階名の模唱や暗唱に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽を聴いたり簡単な身体表現を取り入れるなどして表現したりして、拍の流れを感じ取り、音楽的感覚を育てるようにする。 • 拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 鑑賞や演奏の機会を増やし、表現を豊かにし、想像力を広げる。 • 楽器に親しんで演奏する機会を多く設け、個別練習の時間を十分に確保して興味を持って、進んで学習に取り組む姿勢を育てる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発表の中で友達の工夫点や多様な表現方法、またそのよさに気付かせる。 音楽の特徴と気持ちを表すことばを関連付けて音楽を聴けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 題材と生活体験を関連させ、興味・関心を広げていく。 クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 音の重なりを中心に、その特徴と音楽の要素を結びつけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 知覚したことと感受したこととの関わりを考えさせる。 音楽の特徴や気持ちを表すことばの中から自分で要素を選択した上で、演奏の工夫を考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 題材と生活体験を関連させ、興味・関心を広げていく。 クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 様々な材料や用具を経験する機会を増やしたことで、それまでの学習を生かして新しい表現を生み出そうという姿勢が見られた。
- ICTを活用して、自分の作品について記録を残したり、まとめたりすることで、お互いの頑張り振り返ることができ、表現活動に進んで取り組むきっかけにつながった。

(2) 課題

- 題材によって、児童の意欲に差が出てしまう。苦手な題材に対しても主体的に臨むことができるような支援、場づくりを増やしたい。
- 高学年に上がるにつれ、自分の表現や作品に自信を持つことが難しく、表現への意欲の低下、発想を広げることが苦手と感じている場面が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の思いや考えをのびのびと表現するために、ICTを活用して身近な材料や道具の特徴をよく知り、使い方に慣れるようにする。 • 児童が手や体全体の感覚を使って対象や事象を捉えられるような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身近な生活経験を想起できるような題材を設定したり、友達の作品の鑑賞をしたりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • よりよい作品に仕上げようとする態度を育てる。そのために、ICTを活用して作品の振り返りを行い、良さや工夫を取り上げ、共有する。また、教師が声をかけて助言や価値付けをしたり、児童同士が互いに良さを認めあったりできるようにする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 身近で扱いやすい材料や用具に十分になれさせ、表現したいことに生かせるように場面を設定する。 • 友達の作品や表現活動を見ることで、互いの良さや工夫を見つけられるように視点をいくつか提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りの作品などから感じたことを話したり、聞いたりするなどして、形や色、表し方のおもしろさに気付かせ、自分の感覚でものを見たり感じたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りの作品などを見たり、作品について話し合ったりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。 • 今までの経験を活かし、活動に応じて材料や用具の使い方を考えさせ、活動全体を工夫できるようにする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料や用具を経験することのできる題材、場の設定をする。また、材料や用具の正しい使い方についてしっかり指導し、児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 ICTを活用や機の配置などを工夫し、互いの作品などを自然に鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって授業の導入を行い、進んで活動に取り組もうとする態度を育む。 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけをする。
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料を試すことのできる場の設定をする。また、前学年までの材料や用具の正しい使い方についてしっかり復習すると共に新しいものに関してもしっかりと指導を行い、児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 ICTの活用や機の配置などを工夫し、互いの作品などを自然に鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって授業の導入を行い、主体的に活動に取り組もうとする態度を育む。 机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけをする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 体験や実習を取り入れることで、児童の意欲・関心を高めることができた。
- 裁縫は必要に応じて個別指導を行うことで、器用さによる進捗や意欲の差を解消し、苦手意識をなくすことができた。
- 授業でのICT（スクールタクトの課題）による作業や考察、発表を繰り返し行うことで、いろいろな考えを共有することができた。
- 細かな手作業はインターネットの動画を活用し、理解を促すことができた。
- ICT（スクールタクトの課題）を使用した家庭学習作業の課題提出を行うことができた。

(2) 課題

- 感染症対策の影響から昨年度まで調理分野でのグループ活動が少なかったため、通常の調理実習のグループ活動の取り組みに困難さがみられる。
- ICT活用によるタブレットを使用した授業では、授業に関連のない使用を行う場合があり、授業の妨げとなっている。

2 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な縫い方の理解のために、動画や大きな模型を使いやり方を提示する。 • 苦手意識を持たないよう、必要に応じて個別の指導を組み合わせる。 • 調理や裁縫の基本的な技術を実習で習得させ、それを活用して行う作業や実習をできるだけ取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実習の後で振り返りを行い、次回にどう生かすか考える機会をつくる。 • 児童同士の教え合いや作品発表会で友達の作品の良さに気付かせ、自らの課題にも生かせるよう促す。 • 製作実習で自分なりの創意工夫ができる題材を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計画を立て見直しをもつ時間を設定してから実習や活動に取り組み、振り返りを行う。 • 家庭での調査や取り組みを増やし、評価してもらうことで、自主的な取り組みを促す。 • 意欲と自信をもって体験的に学ぶことのできる活動を工夫する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- いろいろな動きが経験できるよう、めあてや技能に応じた様々な場を用意することで、児童一人ひとりのつまずきを解消することができた。
- 良い動きをしている児童や運動の工夫・考えを紹介する時間（シェアリング）を毎時間取ることによって、互いに動きや技のポイントを見合い、学びの質や運動技能の向上につながった。
- 学習カードを効果的に活用することで、個人のめあてをもち、目標に向かって学習に取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- コロナウイルス感染症対策の影響により、多くの児童の体力低下が、学習や生活の中でうかがえる。技能面での個人差が昨年度に引き続き見られる。
- 児童同士で運動を見合い、考えを伝え合うことが難しい児童もいる。どこに着目すれば良いか、動きのポイントを的確にとらえさせる必要がある。
- 適切に自己のめあてを設定することが難しい児童もいる。運動の場や学習活動の改善が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な動きを身に付けるために、誰もが楽しめる場の設定を工夫し、様々な運動経験をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童同士での教え合いや協力する時間を授業の中で取り入れて、良い動きを理解させる。 • 集団で仲良く運動ができるように肯定的な言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全員が楽しみ、達成感を味わうために、誰もが楽しめるルールを工夫したり、遊びの要素を取り入れたりする。
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 誰もが楽しめる工夫を行い、一人一人が達成感を味わえるようにする。 • 楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の良い動きや工夫・考えを共有する時間にICTを活用しながら取り入れ、良い動きを広めていく。 • 自己に適した運動の場を選ぶことができるように、遊びの場を複数用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 運動遊びにゲーム性を持たせ、意欲的にいろいろな動きが体験できるようにする。 • 友達と関わる機会を多く設けて、誰とでも仲良く活動する楽しさを味わわせ、積極的に運動遊びに取り組む姿勢を育てる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてと集団のめあてを明確にし、個人にあった知識・技能の習得を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で運動を見合ったり、考えを共有しあったりする時間を確保する。 タブレットで自分の動画をとり確認することで課題を解決できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりを意識して取り組むことができるように、視覚的に提示する。 見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の流れを伝える。
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせた場を準備して、課題解決の時間を十分確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを意識した指導や助言をする。また、掲示物を用意したり、ICT機器を活用したりして児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやトリオ学習を取り入れ、自分だけでなく、他者の取り組みについても考えられるようにする。 振り返りや他者の良いところを褒める機会を作り、自ら意欲的に取り組めるようにする。
高学年	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自らの動きを俯瞰して見ることを通して、高めたい技能を主体的に高めることができるような場の設定や資料を配布したり、ICTを活用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と交流することで、自らの考えを伝えたり、アドバイスをもらったりと協働して学習に取り組むように、交流の時間を十分に設定する。そのためにも、掲示物を用意したり、ICT機器を効果的に活用したりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを行うことで、次時のめあてを充実させ、自らの学習を俯瞰して見るができるようにする。 ルールやきまりを明確に示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。ルールを工夫することで、運動が苦手な児童も積極的に取り組むようにする。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 1 単位時間でのめあてを明確に示し、知識・技能の習得に向き合える学習展開を行う。 課題解決の時間を十分に確保し、課題別、スモールステップで知識・技能が高められるような場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートやICT機器を活用し、自分の課題と向き合ったり、友達の良いところを見付けたりすることができるようにする。 技のポイントが示された資料を用意し、児童が自分自身で確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習に取り組むことができるように、授業のはじめに学習の流れを伝える。 ルールやきまりを明確に示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。